

## 第4回 (仮称) 千代田区ウォーカブルまちづくり 戦略検討会における委員指摘対応表

### 1. 委員指摘とその対応

#### (1) ウォーカブルまちづくり戦略の概要【第1章】

指摘	委員	■対応
○2 ページの目的について、QOL という形でまとめているが、QOL を千代田区としてどう受け止めるか。国交省では、ウォーカブルを都市の国際競争力やクリエイティブな力、イノベーションの創出等を都市に展開していくうえで大事としている。一方で、千代田区にもそういったものは大丸有地区等にあるが、それぞれの地域で特徴がある。そうすると、地域にブレイクダウンした目的や身近に感じられるウォーカブルな目的をどう表していくかを考え、資料編等で示すことを考えてもよいかもしれない。そして、ウォーカブルが千代田区にいる一人ひとりの力を発揮するのに大事だということが伝わると良い。	印出井 委員	
○戦略の後に区民の皆さんとエリアごとに話し合っていくということを考えると、国が考えるウォーカブルの目的に引っ張られすぎず、区民目線で区民が主体になるということがよいと考える。区民が主体となって QOL を考えてもらい、自分事となることが大事だと考える。	中山 委員	
○ウォーカブルとは何か、QOL とは何かについて、全体の流れとは別に、この検討会で議論されてきたことをまとめてコラムとしての差し込むと、ウォーカブルや QOL のイメージがしやすくなるのではないかと。資料編が充実し、データベース化してきてしまっているため、本編でイメージがかきたてられるものを入れられれば良いと考える。	中島 委員長	■ 第1章 P4 に、ウォーカブルと QOL についてこれまでの検討会で議論されてきたことや、まちづくりに関心のない人も含め多様な意見を集めて地域ごとに異なる QOL を考えていく必要があることをコラムとして掲載。
○千代田区で暮らしている人たちがどうありたいかのために、どういうふうなまちづくりとして今回のチャレンジができるのかが前提にあると考える。そこを外さず最後までまとめていきたい。	中島 委員長	
○実際にウォーカブルなまちづくりを進めていく時に、様々な意見をいえる場をつくって、何をしていくのかを決めていくのが大事であると考えている。そこにつながるようにまとめておく必要がある。	加島 委員	
○まちに対して関心のない人たちとの接点を、このウォーカブルでどうしていくのかというメッセージが示されているのかということが大事だと考える。例えばまちづくりビジョンがない地域を次どうしていくのかとか、何かそういったところでの場の持ち方とか、次のステップを意識できるように整理しておく必要がある。	中島 委員長	

○P3 のイメージロードマップ的なものになると考えるが、これがどのくらいの時間軸で見ればよいのかが分からない。	樋口 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ P13 「1(1)ウォーカブルなまちづくりの推進に向けた体制」において、短期的な取組みの積み上げが、長期的な取組みを実現するために重要であることを記載。</li> <li>■ 上記の補足として、P15 にコラムを掲載するとともに、短期間の取組み、長期間の取組みの例を追加。</li> </ul>
○すぐできる取組みや、何年もかかる取組み、お金がかかる取組みなどが整理されるとよい。すぐできること等は、「いわれてみれば」となることもある。具体例について、時間軸でのジャンルで分けができると親切だと考える。	田中氏	
○P12 の実現への道筋などにおいて、短い時間軸でできることと、それを積み重ねて長い時間軸でできることの関係性を整理できるとよいと考える。目的に向けて、抜本的に変えようとする時間がかかるかもしれないけども、積み重ねとなるアクションはすぐできるかもしれないということを示せるとよい。	印出井 委員	

### (2) まちなかのウォーカブルな要素【第2章】

指摘	委員	■対応
○ウォーカブルな要素に地域の歴史的資源・文化的資源が入っていないが、回遊として歴史・文化のまち歩きのようなものがあってもよいと考えている。日常的な生活の中での散歩や、訪れてみたい場所を巡るあり様がウォーカブルとしてあると考える。	中島 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指摘を踏まえ、記載を追加（P7・P8）。</li> </ul>
○歩行者天国の雑多なところなど、特色ある賑わいといったものも、そこに行きたくなるウォーカブルな要素になると考える。	土方 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指摘を踏まえ、滞留・回遊のいずれにも記載を追加（P8）。ウォーカブルな要素と効果の一例にも追加（資料編 P39）。</li> </ul>
○日本のサブカルチャーのように、海外で評価を受けて、日本のすごい文化だったと認識したようなものがある。海外の視点や来訪者の視点をウォーカブルでどう受け止めるかも大事だと考える。また、千代田区の様々な特色をつないで見せる考え方も必要だと考える。	細木 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ P6 の説明に、条件の多様性だけでなく、そこを訪れ、活動する人の多様性も考慮する必要がある旨を記載。</li> </ul>

### (3) 基本方針【第3章】

指摘	委員	■対応
○福祉的な視点や、ウォーカブルな要素の周辺についても配慮していくような記載があるとよい。具体的には方針3において非商業施設の話もあるが、福祉施設の事例も入れられるとよいと考える。	三浦 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 方針3の住宅エリアでの平日のイメージに、散策路等を設けて健康増進につなげている説明・事例を掲載（P12）。</li> </ul>

(4) 実現への道筋【第4章】

指摘	委員	■対応
○P18 のパイロットプロジェクトの検討のイメージについて、ウォークラブルなまちづくりでは自動車優先だったものを変えていくという考えのほ ずである。幹線道路であっても様々な交通で目的地に行く流れの中、駅前が自動車優先の道路とな っているため不自然である。また、自動車優先と 示すこともどうかと考える。	三浦 委員	■ タイトルを「現況を踏まえたパイロットプロ ジェクトの候補地検討のイメージ」にし、イ メージがあくまで現況であることを明確化 (P20)。
○P18 のパイロットプロジェクトの検討のイメ ージが、現状の道路の役割を示しているのか、パイ ロットプロジェクトでこのような役割とするの かが分かりにくくなっているため、表現を整える 必要がある。	中島 委員長	

(5) その他

指摘	委員	■対応
○素案をもとに、区民や多くの方にウォークラブルに ついてのガイドラインが示されると考えている。 また、区外の方にとっても参考にもなるため、デ ザイン・レイアウトについてしっかりデザイナー を入れてつくったほうがよい。皆さんに好感をも 積極的に参加していただく意味でも、デザインの 力が必要だと考える。	田中氏	■ イラスト・デザインの制作を委託。
○戦略の内容はよく固まってきているが、それがし っかり区民・区外の方に伝わるかは課題であると 考える。	中島 委員長	

(6) 戦略の名称について

指摘	委員	■対応
○「和」というのが予定調和というか空気を読んで結論までいくと感じてしまった。和の中に伝統的なコミュニティだけでない要素が伝わるようにできるとよい。	印出井委員	■ 別紙のとおり考え方を整理し、名称を決定。
○ 「歩いて出会う千代田の豊かさ」とかはどうか。歩けることが豊かであるということや、外に出てみようという誘いかけを伝えられるとよい。また、何かをつくるということで固定してしまわず、「千代田の豊かさってなーに」くらい抽象的な言葉にしたほうが、具体的な着地点を考えられるよりよいのではないか。豊かさが何をさすのかということは、戦略の中に盛り込まれていると考える。	田中氏	
○ 「つくる」ということは主題の「ウォークブルまちづくりデザイン」の中に含まれていると考える。まちづくりに詳しい人にとってはよいが、病気などで引きこもっているような人や、まちづくりに関心のない方々にとって自分ごとになるきっかけにならないため、「まち」とか「つくる」という言葉が入らない方がよいと考えている。	田中氏	
○目指すものが具体的につくるものなのか。また、「私たちがまちをつくる」というところからその主体性の話をメッセージに入れるところからスタートするのか、もう一段前の、「まちに出る」というところの呼びかけが重要なのかを考える必要がある。	中島委員長	
○ 「和」という言葉が完成形を示す印象というより、「つくる」という言葉が違和感を感じさせているのではないかと感じたため、そこを工夫できれば良いと考える。	重松委員	
○ここで出た視点とそれに対する考え方を明確にしてもらったうえで、事務局と委員長に一任できればよい。出るという要素を入れたり、つくるということばを除いたりがよいのかと。	中山委員	